

広報

あさひまち

ASAHI-MACHI

7

1990
JULY
月号
NO.404



シリーズ “働く”

簿記一級取得をめざし猛勉強中

「おかあさん、今日はイカが安いよ」と威勢のいいかけ声とぶ。「西部地区を中心に一日十二集落ぐらい巡ってます」と話すのは加藤正さん（常盤・30歳）
高校卒業と同時に家業の魚店を継いで十二年

目。行商先のおばあちゃんたちとは、すっかり馴染になった。
マラソン、社交ダンスと多趣味な彼だが、今は簿記一級取得をめざして猛勉強中。大型店に負けない経営体質をつくりたいと意欲十分だ。

第47回

べにばな国体成功へ スタートダッシュ

思いきり躍動21世紀の主役たち

いよいよ二年後に迫ったべにばな国体。県内四十四市町村を会場に実施されますが、朝日町ではデモ・スポーツ行事として「壮年ソフトボール競技」が開催されます。半世紀に一度しか巡ってこない一大イベントを、競技開催だけにとどまらず、町の活性化の起爆剤としたいものです。



二巡目を迎える国体

二年後の平成四年に開催される「べにばな国体」。この国体は冬、夏、秋の全季にわたり四十二の競技と九種目のスポーツ行事を、県内四十四全市町村に分散して行われる、史上五番目の「完全国体」です。

半世紀に一度しか巡ってこないこの大会で、朝日町は『壮年ソフトボール競技』(デモンストレーション)としてのスポーツ行事を開催します。

終戦後の昭和二十一年の秋、戦災を免れた京都を中心に開かれたのが第一回国民体育大会。その後、広く国民の間にスポーツを普及させ、スポーツ精神を高め、健康増進と体力の向上を図り、併せて地域スポーツの振興と地域文化の発展を目的として毎年行われているものです。山形県では昭和二十七年に、第七回大会を福島・宮城の三県合同で開催し、ソフトボール、ボクシング、体操、バレーボール、山岳の五競技が行われました。国体は、全国を東、中、西に



朝日町で行われるデモ・スポ行事「壮年ソフトボール競技」

分け毎年都道府県持ち回りで開かれていますが、昭和六十三年の京都国体から二巡目に入りました。この京都国体から、県民を対象としたデモ・スポ行事が開催されるようになりました。

このデモ・スポ行事の開催を機会に、朝日町の美しい自然や人情、二十一世紀に向けて活躍する町民をアピールすると同時に、指導者や選手の育成を行い、町のスポーツ振興に大いに役立てたいものです。



県民対象の

デモ・スポ行事

山形県では、「県民総参加の開かれた国体」をめざし、県民スポーツの一層の振興と、新たなスポーツ文化の創造、活力と潤いのある地域づくりを目的に本大会を開催する訳ですが、地元スポーツ愛好者も国体に参加できるようにと始まったのが、デモ・スポ行事です。

このデモ・スポ行事は、県内四十四市町村の対抗形式で行われる大会で、県下十三市町村で九種目が開催されます。朝日町では、藤島町（庄内）と合同で

四十四市町村チーム（うち朝日町は二十二チーム）それぞれ監督一名、選手十五名の計三百五十二名を迎え、『壮年ソフトボール競技』が開催されます。

デモ・スポ行事は、正式競技と比べると、参加対象が県民であることが大きく異なりますが、大会実施に向けた体制、人的配置、開始式などの式典に至るまで、ほぼ正式競技と同等に開催されます。デモ・スポ行事、正式競技、公開競技を合わせて県内全市町村を会場に開催される初の国体ということで、県内外から注目されている大会です。



実行委員会を設立し

本格的準備

昭和63年に、デモ・スポ行事の説明会が県国体局で開かれ、これを契機に県と町の連絡調整が始まりました。その後開催意向調査が行われ、朝日町では、第一〜三希望まで三競技を希望。

国体局で調整の結果、候補に上がった九競技を13市町村にふりわけ、朝日町は藤島町と合同で『壮年ソフトボール競技』と決まり、平成二年三月二日に日本

これまでの取り組み経過

63/10	デモ・スポ行事説明会
11	デモ・スポ行事開催意向調査
元/3	県実行委員会、常任委員会においてデモ・スポ行事会場地及び実施の申請について決定
5	デモ・スポ行事会場市町村連絡調整会議
7	県国体局長朝日町会場予定地視察
7	デモ・スポ行事会場地視察（県ソフトボール協会国体局）
7	日本体育協会において第四十七回国民体育大会を山形県で開催することを正式決定
9	第四十四回国民体育大会ソフトボール競技視察
2/5	デモ・スポ行事運営連絡調整会議（県協会、藤島町、朝日町の合同会議）
5	国体局からデモ・スポ行事実施基準要項の制定について通知
5	壮年ソフトボール競技実施要項（案）を国体局へ提出

体育協会へ実施申請することを決定しました。これを受け町では、競技会場を「朝日中学校グラウンド」「西部地区総合運動場」「大谷地区運動広場」(秋葉山グラウンド)とし県へ申請。県のソフトボール協会、国体局が視察の結果、会場をこの三会場に決定しました。九月に北海道石狩町へ国体の規模や人数、受け入れ体制などを研修しています。

これまで町では、藤島町や競技運営の主管となる県ソフトボール協会と、準備体制や役員、選手の養成等について検討を重ねてきました。今年七月中をめぐりに実行委員会を設立するため、六月二十八日には設立に向け準備委員会を開催し、実行委員会の持ち方等について協議、検討しました。実行委員会が設立されると本格的に国体準備が進められる訳ですが、いくつかの課題も予想されます。

公認審判員の

養成が課題



一つは、この競技はデモ・スポーツ事とはいえ、国体競技の一

種目として日本体育協会が承認したものであり、準備体制には、万全を期さなければなりません。

次に、現在朝日町には公認審判員の数が少なく、平成四年までの二か年でより多くの審判員を養成しなければなりません。

これについては、県、町ソフトボール協会との打ち合わせを行いながら、今年度中に朝日町を会場に、三種公認審判員の認定講習会を開催する準備を進めています。この講習会は、八月中の二日間を予定していますが、広く町民の方に受講していただき審判員として国体への参加がのぞまれるところです。

第三に、先催県の例を見ると、競技の受け入れだけでなく、町民一丸となって選手を温かく迎えています。例えば、競技会場での接待、会場の美化、花いっぱい運動、選手滞在中の町民の接し方、マナーの徹底、町のPR活動等、町民の暮らしの中まで国体が入り込んでいます。

これらを町でどのように計画し実行するかが、町のイメージアップにもつながり、今後の活性化にも大きく貢献するものです。生涯スポーツを、町民一人ひとりにどのように取り入れて行くかを考えると、国体開催を通してスポーツへの関心を高め、

町全体の盛り上げにどのようなつながりがあるかが大きな課題といえるでしょう。



町民みんなで

国体を成功させよう

町では、デモ・スポーツ事開催を単にスポーツの祭典としてのみならず、町民総参加の町づくりのひとつとし、地域活性化の原動力として考えています。

国体競技を成功させるには、大会を支え盛り上げる町民のみなさんの協力が必要です。競技に参加する選手や、大会運営に携わる役員はもちろん、開始式表彰式を盛り上げる式典音楽や集団演技の出演者、そして、会場美化や、接待等、一人ひとりがそれぞれの立場で国体を支えます。

また、国体への参加方法として、「競技会、式典等への出場や運営」「来町者の受け入れ、接遇」「会場設営、環境美化」「心援、



国体に参加できる絶好のチャンス进行



朝日町ソフトボール協会長

浅岡 清二さん(西町)

「べにばな国体」は、大会史上五番目の完全国体として、平成四年に県内四十四市町村を会場に開催されます。朝日町では、県民を対象としたデモ・スポーツのうちの「壮年ソフトボール競技」が平成四年九月六日から九日までの期間で二日間行われる予定です。

県内各地から二十二チーム、三百五十二名の選手が朝日町に集い、三会場で熱戦が展開される訳ですが、私たちソフトボール協会が中心になり競技運営をしなければと考えております。そのためには、公認審判員の養成を早急に行う必要があります。協会の会員のみならず、町民のできるだけ多くの方からも審判員として活躍くださるようお願いいたします。

また、審判員の養成と同時にソフトボールの競技力の向上を図らなければなりません。出場できる年齢は平成四年四月一日現在で満四十歳以上の方です。半世紀に一度しかおとずれない国体に、しかも地元で参加できる絶好のチャンスです。協会としても、これを機会に組織の強化拡充を図るべく一生懸命がんばりますので、町民のみなさんの温かいご支援、ご協力をお願い申し上げます。

べにばな国体

「壮年ソフトボール競技」 成功に向けて

朝日町体育協会長

／榎 寿太さん（大谷1）



べにばな国体も開幕まで2年あまりと迫りました。板垣県知事は、県政史上最大のイベントである第47回国民体育大会を県民挙げて成功させ、全国の人々の胸に深い感動を残す大会にしようと呼びかけています。大会に向けての環境づくりが着々と進むなか、わが町でもデモンストレーション行事として壮年ソフトボール競技の指定を受け、町内3会場で実施することになりました。

現在、教育委員会生涯学習課に事務局を置いて準備が進められ、近日中に実行委員会が発足される予定です。大会は庄内地区と村山地区に分けられ22市町村の選手がわが町に集まります。

また、国体選手はわが町からと、全市町村が懸命に技術の向上に向けて努力しております。朝日中も強化指定校となり、生徒諸君の努力により、素晴らしい成果を挙げていることは、皆さんもご承知のとおりです。

デモンストレーション大会といえども22市町村の選手をわが町に迎えての大会です。山形県は総合優勝天皇杯めざして、朝日町は壮年ソフトボール大会優勝をめざしがんばりましょう。

朝日町体育協会加盟団体の皆さん、特にソフトボール愛好者の方々、そして町民の皆さん、今こそ連携を図り、大会の成功に向け一丸となって立ち上がりましょう。

朝日町での大会も「感動を残す大会」になりますよう特段のご協力をお願いいたします。



会場となる秋葉山グラウンドの花いっぱい作業

支援」等、いくつか上げられます。これから実行委員会で検討を重ね、いろいろな形で町民の皆さんにご協力をいただくこととなりますが、町民一人ひとりの参加が国体成功への力となります。みんなで「壮年ソフトボール競技」「国民体育大会」を成功させましょう。

こうしたことが、私たち朝日町民の自信と誇りになり、二十一世紀に向けた町づくりの重要な礎となることでしょう。



「べにばな国体」 強化指定選手紹介



【スキー】

堀 由紀子（朝日中3年）舟 渡

【バスケットボール】

海 野 敦 史（山形南高1年）西船渡
海 野 秀 明（山形南高1年）本 町
菅 井 一（山形東高1年）宿
熊 谷 忍（朝日中3年）小 原

【ソフトボール】

岡 崎 千 春（城北高1年）本 町
清 野 令 子（左沢高1年）四ノ沢

【剣 道】

清 野 志津佳（左沢高1年）古 楨
渡 辺 健 一（酒田商高1年）大谷3

町政 スポット

自然のすばらしさに感動

神奈川県から “大豆種蒔きツアー” 来町

四月に神奈川県藤沢市で行われた「納豆シンポジウム」の関係者が二泊三日の大豆種蒔きツアーに当町を訪れました。

六月八日到着した一行二十一名は朝日自然観で旅のつかれをいやし、翌日、受け入れ先の杉山大道地区へ。一行はさっそく耕された約一haの畑に入り杉山生態農法研究会（安藤正義代表）の指導のもと「地塚大豆」の種蒔きに汗を流しました。

ツアーの、ある参加者は「都会の騒音や汚れた空気とは正反對の、こんな素晴らしい環境で育てられた大豆でつくられた納豆は、私たちの健康を回復してくれるでしょうね」と話してくれました。

十一月上旬には収穫体験ツアー

も予定されており、収穫した大豆と無農薬栽培した稲わらを使った「おけ納豆」づくりが予定されています。

また、ツアー参加者の一人で精進料理研究家藤井宗哲さん（鎌倉市在住）の指導のもと、自然食の根源ともいえる、山菜と納豆を組み合わせた料理講習会もあわせて行われました。種蒔き終了後、参加者たちは大自然の中、準備された山菜と納豆料理の自然食に大いに満足していました。

今後町では、農協と一体となり、「納豆」をきっかけとした都市との交流を活発にし、消費者ニーズを先取りした農産物の栽培と販売方法について研究を行う計画です。

農家の声を農政に反映

一日東北農政局長懇談会開催

六月六日、農林水産省東北農政局の現地農政懇談会が朝日自然観で開催されました。

この懇談会は、東北農政局が地域農業関係者のなまの声を聴き、実情に即した農政を展開するために、農政局管内で年一回行われているものです。今回は、中山間地域の農業、農村の活性化を主なテーマとして話し合いが行われました。

出席者は町から小林町長、鈴木農協組合長をはじめ、水稻部門代表の佐竹亮一さん（松程）畜産部門代表の長岡金一さん（大谷五）、果樹部門代表の堀義三郎さん（舟渡）それに、農家婦人を代表し奈良崎恵美子さん（大滝）らが出席。

各分野ごと、現在抱えている課題などについて率直な意見交換が行われました。なかでも、堀義三郎さんからは「輸入果物の攻勢が一段と強まる中、経営規模の小さな当町では、いかに

高品質なりんごをつくるかが大きな課題です。また、消費者要求に対応できる産地を形成するためには、生産、流通、販売の指導体制の強化を図る必要があります、その指導、助言をおねがしたい」などの要望が出され、これからの農業展望について熱心な話し合いが行われました。



朝日自然観「大地」で行われた懇談会

自然を満喫した参加者たち



長期的展望に立った運動を

内陸循環鉄道(左荒線)促進期成同盟会総会開く

「消すな、絶やすな、先祖の願い」を合言葉に五市六町、三十五名の会員が出席し、内陸循環鉄道(左荒線)促進期成同盟会総会が六月二十八日、ホテル朝日自然観で開催されました。

総会ではまず会長の小林町長よりあいさつがあり、「長井、左沢両在来線の利用拡大運動の継続に取り組むと共に、県が企画している出羽丘陵一帯の開発や、沿線市町の観光開発の進展にともない、大量輸送の公共交通機関に対する要求の高まりが予想されることから、なお一層長期的展望に立った運動を展開していきたい」とのあいさつがありました。

続いて議事に移り、平成元年

度の事業経過や会計決算が報告された後、平成二年度の事業計画、会計予算を原案どおり可決。大きな「鉄の輪」実現に向けて誓いを新たにしました。



ホテル朝日自然観で行われた総会



観光紙袋をご利用下さい

町観光協会では、町の観光PRを兼ねた「手さげ紙袋」を作製しました。

結婚式や法事等にご利用下さい。

- ・1枚 50円
- ・商工観光課・商工会まで

長い間ありがとうございました

「東京連絡事務所」を 閉所いたします

約9年の長きにわたり、みなさまの御指導、御理解、御支援を賜りました「東京連絡事務所」を平成2年5月末日をもって、閉所させていただきましたことになりました。

その間、多くの方々との出逢いの中で、生きていることのすばらしさと難しさを勉強させていただきました。私の生涯の心の糧として大切にしていまいます。過ぎてみれば、いたらぬことのみが思い出され心苦しく思っております。

しばらくは経営に徹し、会社、社員のためにがんばるつもりです。また、東京での「あさひまち会」の副会長として、別の視点から町を見つめてみたいと、複雑な心情も隠しきれない私です。

ともあれ、ひとつの区切りとさせていただきます。長い間本当にありがとうございました。心から感謝申し上げ閉所のごあいさつとさせていただきます。

(前東京連絡事務所長 大井尚武)

※閉所の理由につきましては次号でお知らせします。

団員の総力を結集し 全力を尽す

全国消防操法大会選手団結団式



全国大会に出場する選手と指導者

六月二十九日、全国消防操法大会出場選手団の結団式が、県消防協会長はじめ多数の来賓を

むかえ中央公民館で開催されました。

席上、渡辺団長より「八十八年に一度という出場機会に恵まれたことに感謝し、消防団の組織強化と町の活性化のため全力を上げてがんばりたい」という力強いあいさつがありました。続いて出場選手と指導員が一人ひとり紹介され、出場選手を代表して長岡和浩さん(本町)が「全国大会に出場できる名誉をけがすことなく、訓練に訓練を積み、皆様のご期待に答えられるよう努力する」という決意が表明され会場から激励の拍手が送られました。

あさひまち人が集う

第2回新生「あさひまち会」総会



会場となった新宿小田急ハルク

東京など首都圏に在住する朝日町出身者の会「あさひまち会」の第2回総会が、六月二十四日新宿で行われました。参加したのは、百五十人あまりの「あさひまち人」。町からは、小林町長と松田議長など四名が出席、あたたかい歓迎を受けました。

「自然観を自ら利用し、そして友人や知人にPRして欲しい」という志藤六郎会長（栗木沢出身、横浜市在住）の心強いあいさつの後、特産の朝日町ワインで乾杯。なつかしい「ふるさと」の話題に花を咲かせながら、楽しい一時を過ごしました。



なつかしい顔に“えびす顔”の大井副会長



歌もとび出し、やんやの拍手



楽しさに笑顔100%



あさひまち会総会・親睦会

平成27年6月24日



志藤会長と町からの招待者たち



町長、議長といっしょに乾杯//北部地区出身のみなさん



“自然観を会員みんなでPRしよう”とあいさつをする志藤会長



みなさん、私の歌をきいて下さい。



松田議長を囲んで記念撮影の西部地区出身の美女たち?!

■連絡先

役場企画情報課

企画広報係へ

☎67-2111 (内222)



おとうさん “かま”を使うの上手

大沼分校で親子フキ採り

六月十七日の「父の日」、町内各学校では、お父さんと子供の行事がいろいろ行われました。大谷小学校大沼分校（阿部和歌子主任・生徒数12名）では、りんご園に自生している「フキ」採り作業を親子楽しく行いました。

当日は、午前十時に小林晴雄さんの園地に集合。お父さんたちがフキをかまで刈り採ると子供たちが葉を手でちぎりコンテナに収穫。この行事は五年前から、日頃あまり見えないお父さんの働く姿を子供に見せ、共同作業をおして、父子の絆を深めようと思ったもの。



おとうさんといっしょのフキ採りで楽しいひとときを過ごした子供たち

六年生の白田純恵さんは、「お父さんと一緒に働けてとても楽しい。それにかまを使うのがとても上手なのでびっくりした」とうれしそうに話してくれました。

二時間ほどの作業で二百五十kg、一万五千円の収穫があり、分校ではこのお金を、PTA会計に繰り入れ大切に使うことにしています。

朝日町にもいた“人面魚”

最近の全国的人面魚フィーバーのなか、阿部宗一郎（常盤・朝日相扶社長）さん宅で飼っている鯉の中にもいるのではと探したところ、いるいる、正面から眺めるとまさに人間の顔。

この鯉は十年前に求めた「金かぶと」という品種。すっかり近所の評判になり、通学途中の子供たちは池をのぞき込んで、「不思議だねエ」「どうして」などとワイワイ、ガヤガヤ。当分朝日町の人面魚フィーバーも続きそうです。



大町 高橋孝二さん（63歳）
登夢くん（宮宿小1年）
瑠衣ちゃん（4年）
まさ子さん（62歳）

わたしのおばあちゃんは、少し太っています。やさしくて料理がとても上手です。

おばあちゃんの料理は何でもおいしいですが、とくにわたしはかぼちゃの煮たのが大好きです。

やせているけどはたらきもののおじいちゃんが畑で作った、ナスやキュウリを、とてもおいしくつけものにしてくれます。ずっと、ずっと長生きしてください。わたしの大きなおばあちゃん。

瑠衣



近所の人気もの“人面魚”



町民の

このひろばはみなさんのページです。話題やご意見、作品など、ご自由にお寄せ下さい。

ひとことトーク

手づくりは二重のよろこび

孫の洋服づくりに精を出す



斉藤智子さん
(長沼・53歳)

私は、ものを作ることが大好きで、若い頃に洋裁を学んでよかったと思っています。私の若い頃は、自分で作らなければ、着ることができなかったもので、子供が小さいうちは、たいがいのは作って着せました。あの頃は不思議なことに、農作業が終わってから、夜遅くまでミシンを踏んでも眠くなかったものです。

今は、もっぱら孫のものを作っています。いろんな商品が回っているから、買ったほうが安いのではないかと思うのですが、みんなから、「上手だね」「買ったみたい」と誉められると、次は何を作ろうかと思ってしまう。手づくりは、作る楽しさと着せる楽しみがあるので、ミシンが踏める限り続けたいと思っています。



ふるさとと土とともに生き、やがて、ふるさとと土にかえる一生はつましくも尊い。ふるさとを思い、ふるさとと空の下で日々の営みを積み重ね、やがて、命絶えるのである。

十七年前の昭和四十八年に、「空気のありがたさを人間は忘れ、次々と汚しつづけている。世界にさきがけて朝日町に、空気神社を造ろうではないか。」と、熱っぽく提唱したのは白川千代雄氏であった。山形新聞はいち早くこのことを伝え、「大気汚染公害に対するアンチテーゼである」と報じている。

当時六十二歳であった彼は、農業の傍ら、古木の根っこで置

ふるさと人国記 3

白川千代雄

「空気神社」生みの親

きものや欄間を造る趣味グループ「山形県古木会」の会長を務めていた。多能な彼は、「農協うた相撲」や「民謡相撲」という放送番組に出演し、三味線を弾いて歌う名調子で「横綱」位を獲得したこともあった。

千代雄は大正元年十二月五日、西五百川松程の農家、白川甚五郎氏の長男として生れた。朝日川が流れ朝日の山々を仰ぐ台地で、土と生きる日々を重ねた。

作詩した数多くの唄の一つに「松程音頭」があり、「つつじ咲いたとわらびが招く」という詞がある。草花を愛し自然を愛しつづけた彼にとって、「空気神社」の提唱は、まさに凝縮された叫びであったのだろう。

彼の遺志は空気神社建立奉賛会(菅井敏夫会長)に継承された。「朝日自然観」そばに建設中の「空気神社」は、今月二十七日に落慶を迎え、白川千代雄氏の霊に告知される。

昭和六十一年四月二十四日没。
文・杉ひさし

入荘者と地区民の交流を盛んに

明鏡荘の運動広場が完成 記念ゲートボール大会開催

六月二十一日、小雨のなか明鏡荘の運動広場完成記念ゲートボール大会が新設されたコートで行われました。

この運動広場は、これまでの広場が手狭になったため整備されたもので、建物東側にゲートボールコート二千二百四十二㎡、生きがい実習畑二千四百十五㎡、ミニ公園七百五十㎡、総工費七百五十万円で新設されたもの。

式典では、大沼荘長と入荘者代表がテープカットをして運動広場の完成を祝いました。続いて、招待された北部地区内の七チームと明鏡荘チームを含めた八チームで、新コートの感触を楽しみながらコート開きを行いました。

これからは、運動会や盆踊り大会など屋外の催しもゆつたりできることになり入荘者は大変喜んでいきます。また、普段この広場はゲートボールコート二面を常設しているため、地域の愛

好者も無料で利用できるとのこと、これからゲートボールを通じた地域の人と入荘者の心の交流を一層図っていきたいと関係者は話していました。



新設なったゲートボールコートを利用し地区の人たちの交流が期待されます。

第8回 最上川激流 全国イカダ下り選手権大会

- と き 7月22日(日)
午前9時30分スタート
- ところ 全長8キロの激流
(雪谷～栗木沢)
- 参 加 55チーム



秋葉山の環境整備は自らの手で

除草剤散布早朝作業

六月十九日早朝、秋葉山グラウンドの除草剤散布作業が朝もやをたいて行われました。

この作業は、例年北部地区の野球チームが、北部サンデーモーニング野球大会に先がけ、ボランティアで行っているもの。

この朝も、動機ポンプ二台、タンク二個を軽トラックに積載し約一時間で終了するという手際

のよさ。

五月には、高齢者の人たちによるツツジ、ドウタン百本が植栽されるなど、地区民の手づくりによる周辺整備が進む秋葉山。七月八日から始まった野球大会では、雑草のないきれいなグラウンドで、ハッスルプレーがくり広げられています。

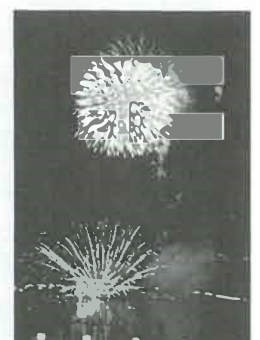
第8回 朝日川溪流まつり

- と き 8月5日(日)
午前10時
- ところ 立木河川公園
- 入場料 小学生以上 500円



第22回 上郷ダムまつり 花火大会

- と き 8月14日(火)
午後7時打上開始
- ところ 上郷ダム公園
- 行 事 つり大会など多彩



野球大会は雑草のないグラウンドで

夏山シーズン到来

朝日連峰夏山開き

朝日連峰夏山開きが六月十七日、鳥原山にある朝日嶽神社で行われました。

前日の雨もあがり、山開きの神事には朝日、大江、西川、寒河江、長井、白鷹各市町の関係者や登山愛好者約五十人が参加。

それぞれの代表者が玉串を供え、シーズン中の安全を祈りました。

また当日早朝、恒例になっている参加者全員による登山道周辺やキャンプ場などの清掃活動を展開。夏山を気持ちよく楽しむことができそうです。



シーズン中の安全を祈る関係者

ふるさとめぐり (3)

響け風神太鼓 高木の森に

大谷三
(高木)



大谷の風神祭に出演する「風神太鼓」

大谷第三区は、旧大沼街道添いの四十二戸の集落。ほとんどが兼業農家ですが、職人が多いのが特徴で大工、左官、板金、石工、庭師と十余名が現役で活躍しています。

四年前、若い人達で組織している親睦会が中心となり、地域の活性化と連帯感を深めようと歴史ある大谷の風神祭に、子供達による神楽と太鼓の山車をだすことにし、風神太鼓と命名。地域ぐるみの盛り上がりの中で

全戸加入による保存会も組織されました。風神太鼓に寄せる地区民の熱い声援が第三区の大きな活力源となり、長く継承していくことにしています。

集落の南側には大谷の四天神の一つで、高木の天神様が建立されています。毎年二月の祭礼には、厄払い、合格祈願に大勢の参拝者が訪れ、区の古くからの伝統行事として全戸あげて盛大に祭典を続けています。

当面、第三区の課題は、地区民の協力を得て町道稲場線を早期完成させることであり、今後積極的に取り組んでいくことにしています。

(文・堀敬太郎 広報委員)

カルガモのひな誕生

西五百川小学校

いま西五百川小学校で、カルガモのひなが子供たちの人気を集めています。

同小学校の近衛用務員さんがプール周辺の草刈りをしていたところ卵を発見。親鳥が寄り付かなくなる恐れがあったので、ふ卵器を使ってふ化に取り組んだ結果、六月十八日見事に六羽のひなが誕生しました。

え付けにも成功し、今では給食のおかずやパンくず、それに

ヤマメ大きく育て

送橋小児童三千匹放流

最上川第一漁業協同組合(松田巳之助組合長)は七月六日、送橋地内、沢上川に三千匹のヤマメを放流しました。

放流には送橋小の児童三十五名が参加。よみがえる清流の願いをこめて一匹づつ放流。

二、三年前までは、ヤマメの美しい魚影が見られたのに去年あたりから見られないと地区の人たちは心配顔。工事の影響があるのだろうか。

親子で揃って釣りを楽しめる



ヤマメを放流する送橋小の児童たち

沢上川がよみがえってくれたらと地区の人は期待しています。



子供たちと遊ぶカルガモのひなたち

家のそばに水の流れのある人は、けっこう多いと思います。私の住んでいる所にもあります。その流れの移り変わりを話してみたいと思います。

「和合堰」今昔

どん速く流れていきました。そのころからでしょうか、ホタルやフナなどが見られなくなったのは……。

三年前の堰作業

私が小さかった頃、そうまだ小学校へあがる前の頃のことです。家の近くに堰がありました。大堰（和合堰）と呼ばれるその水路は、そう大きくはありませんが、両岸には草が繁り、夏にはホタルが舞い、枝分かれした流れにはサワガニもいました。ところが、その水路も、しだいにコンクリート製のU字溝に置き換えられていきました。両岸の草も取り払われ、そのため、今までゆったりと流れていた水が、どん

話は三年ほど前のことになりました。私の部落では、年に数回大堰の手入れがあります。春には、一年間に溜まったドロやゴミを取り除く作業があります。例年、私は下流の方が割り当てで、楽しみといったら、たまにドジョウを見つけないくらいいました。コンクリートの堰は、ドロ上げも楽で、作業もたいへん

んはかどります。

ところがその年は、上流の方へ行くことになりました。送橋川からの取水口の方です。すると、なんとそこには、昔の田んぼの風景が残っていました。ジグソーパズルのように、いろんな形の、しかも小さな田んぼが並び、そこを草に覆われた土の堰が、くねくねと続いています。実は、その時は、なつかしいと思うよりは「これは、ドロ上げがたいへんだな」と思いました。とりあえず、作業にはいいり、下流の方へ進みました。

ドンコロムシとシジミ貝

ところで、その日には、作業がしやすいように、川からの水を止めていたので、底の方が良く見えました。すると、昔、金魚鉢に入れたキンギョモが生え

ていました。さらに、変なものがありました。長さ四、五センチメートルの茶色の土管のようなもので、中に虫が入っています。年上の人に聞いたら「ドンコロムシだ」と教えてくれました。「ドンコロムシ？」そんなものは知りませんでした。ただ、その姿が名前とピッタリで、おもわず笑ってしまいました。ところが、それだけではなかったのです。なんとシジミ貝がいたのです。そのほかにも小さい魚もいて、昔、小さな頃に見た小川の様子が、どんどんよみ返って来るようでした。

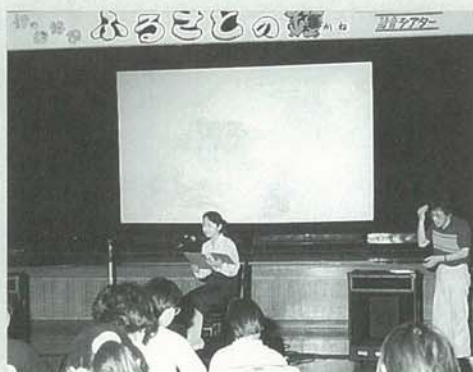
今年の春の様子

今年の春に、気になって、もう一度あの場所へ行ってみました。するとどうでしょう、あのドンコロムシのいたあたりは、コンクリートに変わっていました。そこを水がどんどんと勢よく流れていました。しかし、少し下流に、ほんの二百メートルくらい、昔のままの所が残っていました。水の底をのぞき込むと小魚が飛ぶように泳ぎ、キンギョモもありました。それならと探してみると、ヤゴがいま

詩と音楽の

魅力をたん能

第一回詩音シアター



ほのかな光の中、シンセサイザー（電子楽器）の音楽をバックに静かに流れるように詩が語りかける。

六月十六日、中央公民館で詩音シアター（鈴木浩幸代表・会員十八名）主催の第一回詩の朗読会が行われました。

初の試みのこの夜は、ふるさとの鐘と銘打って、「黒板のうた」、「みどりの笛」などの詩集を発刊している杉ひさし（鈴木久夫・沼向）さんの詩集より二十編を朗読。町内外から参加し

昔のままの堰、見つけた！^{せき}



和合堰から見つかったシジミ貝とカワニナ(上)
和合堰(右)

した。トンボの幼虫です。カワニナも見つかりました。ホタルの餌になる巻貝です。そしてシジミ貝も数匹見つかりました。しかし、ドンコロムシは見つけられませんでした。それでも、カワニナがいるということは、初夏にはホタルが見られるかもしれないということです。また楽しみが増えてきました。

水をきれいに する流れ

さて、ホタルの住む川は水がきれいだと言いますが、ここはどうなのでしょう。サワガニがいる所はきれいな流れです。カワニナもきれいな流れにいます。ドンコロムシ(トビケラの仲間の幼虫)は、少し汚れた流れにもいます。ヤゴは少し汚れた流れにいます。ここで見つけたシジミ貝は、水のきれいな川や沼の砂地に住むマシジミのようです。つまり、送橋川から水を引いている大堰の水は、やや

汚れ始めた流れということになります。

その水が、下流の私の住む所に来ると、生き物が見られず、しかも濁ってくるのはなぜでしょうか。農業ということも考えられます。ですが、最近の農薬は毒性が低くなって、ひと頃よりトンボ等も増えたようです。生活排水でしょうか。たしかに大きな問題ですが、大堰の周辺に家が建て込んできたわけではありません。それでは、ほかにどんな理由が考えられるのでしょうか。あの昔ながらの流れをよく観察すれば何か教えてくれるかもしれません。

未来への財産

たとえば、土の堰の所は、草が生え、岸も曲がりくねっていて、流れに変化があります。流れの速い所でも、岸辺の草の陰には、生まれてまもない魚やヤゴがいました。ところが、コン

クリートの所は、そうはいきません。何でも流されてしまいきます。それでは生き物はなかなか住めません。生き物がいないければ、上流から流れてきたゴミや汚れが、水草等の肥料になることもなく、虫や魚の餌になることもなく、汚れが増える一方です。そうです。流れには本来、水をきれいにする力があるので

大堰の場合、コンクリートで固めたことで、流れはスムーズになり、水路の管理などはたいへん楽になりました。もう重くたいへんなドロ上げの頃へもどることは、私自身ごめんです。しかし、たった二百メートルでも、タイムカプセルのように今も残る本来の小川の姿に心が引かれていたことも事実です。便利さと裏腹の世界ですが、それをもう戻れない過去のものにしてしまうのを悲しく思うのは私だけでしょうか。

(教育広報委員 菅井源三郎)

た約六十名の聴衆は、詩と音楽と光の演出にすっかり魅了された様子でした。
会では、今回の成功を機に今後は定期的に開催したいとほりきっています。

西村山地区

中体連の成績

優勝

- 団体・男子剣道
- 女子バスケツトボール
- ソフトボール
- 個人・鈴木和志(剣道)

準優勝

- 団体・男子テニス
- 女子剣道
- 男子バスケツトボール
- 個人・兼子 洋(剣道)

三位

- 団体・男子卓球
- 女子卓球
- 女子バレーボール
- 個人・西沢大樹・清野智彦組(男子テニス)
- 高取志津子(剣道)





●大谷六／渡辺 芳夫さん
泰子さん

さわやか 新婚さん

グループ交際から1年。スポーツ、カラオケが大好きな2人が熱いデュエットを歌って見事ゴールイン。

明るく元気な女性と彼が話すように、友達と酒を飲みながらワイワイ、ガヤガヤ楽しめる家庭をつくるのが目標とか。

バレーボール、野球、スキーとなんでもOKのスポーツマンのお2人。特に2人で行くスキーは最高だそうです。いつまでも、意気の合ったシユプールを描き続けて下さい。お幸せに！
(遠藤喜由 広報委員)

人口と世帯数

●平成2年6月30日現在

人口 10,692 (△5)

男 5,297 (△3)

女 5,395 (△2)

世帯数 2,589 (△1)

() 内対前月

わが朝日町では、正式種目競技ではないものの、デモンストレーション行事としての壮年ソフトボール競技が行われる。町内の一時のソフトボールチームは下火にはなったが、早朝大会なども開催されるなどなかなか盛んである。だれでも簡単にできて、観戦する側も結構楽しめるソフトボール。もう一度見直してみてもどうだろうか。
(K)

こせきのまど

■6月1日～30日届出

宿 佐藤 祐市 ♡ 元 町 鈴木智賀子



おしあわせに

(婚姻届)

大谷二	常盤	前田沢	大谷二	杉山	中沢	前田沢	区名
石井	佐竹	渡邊	渡邊	齋藤	堀	佐藤	出生児氏名
亜弥	聡美	大貴	裕人	佑輔	明日美	友幸	父名
好秀	長司	弘敏	寿典		和彦	繁夫	父名



すこやかに

(出生届)



やすらかに

(死亡届)

立木	下芦沢	本町	常盤	西船渡	松原	大谷三	夏草	四ノ沢	区名
大津	大滝	佐藤	村山ちるこ	若月	小関	石井竹太郎	阿部	柴田文三郎	死亡者氏名
庄吉	ふて	昌俊	正義	正義	米吉	喜久男	政士	長岡	世帯主
ヨシ	伸之	俊雄	馨	忠男	隆藏	和男		護	

中 沢 堀 浩一 ♡ 荒木 良江
西川町



佐竹瑞穂さん(夏草)より中央公民館でのチャリティー絵画展の売上金三十六万円を町育英会にご寄付いただきました。

育英チャリティー絵画展



白スズメ 飛来

▼(財)山形しあわせ銀行教育振興基金より、朝日中学校へ図書二百十冊(三十万円相当)が寄付されました。

若月直蔵さん(西船渡)の庭先に「白スズメ」が飛んできては、えさをついばんでいます。はじめに見つけた二男哲也君がカメラに写し、県立博物館に鑑定を依頼したところ「ほぼスズメにまちがいない。これほど白いのは県内でもめずらしい」との回答。白いキジは吉兆を表わすという言い伝えがあります。が、きつと白いスズメも……。

春夏秋冬

編集後記

むしむしする梅雨も、もうじき終わり、いよいよ夏本番を迎える。町でも、イカダ下り大会に始まり、溪流まつり、上郷ダムまつりと夏のイベントが目白押しである。イベントといえば、今回特集で取り上げた「べにばな国体」は、半世紀に一度しか主催することができない県政史上最大のイベントであろう。